

報道関係各位

2010年2月10日
ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社

ウォッチガード、新しいコンテンツ・セキュリティ・ソリューションを発表

XCSプラットフォームでメールとウェブのセキュリティを強化

ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：本富顕弘、以下ウォッチガード）は、本日、新しい XCS（Extensible Content Security）製品戦略およびそれを実現する WatchGuard XCS アプライアンスを発表しました。WatchGuard XCS は、インバウンドとアウトバウンドのメールに対し、厳格なセキュリティとプライバシー保護を実現するコンテンツ・セキュリティ・アプライアンスです。また、XCS を Web Security サービスとバンドルすることによって、メールとウェブのトラフィックを包括的に管理し、強力な統合セキュリティを実現できます。

WatchGuard XCS は、インバウンドの e メール脅威対策に加え、アウトバウンド・データの管理を行うことによって、企業ネットワークでのデータ漏洩を防ぎます。スパム、ウイルス、マルウェア、複合型脅威、スパイウェア、フィッシング攻撃などからネットワークを守り、自動化されたコンテンツ・セキュリティによって、データ漏洩の管理とブロックを実現。また、オプションの WebSecurity サービスを購入することによって、これらの機能を全てのウェブトラフィックに拡張し、総合的なセキュリティを実現できます。また、一元管理、レポート機能によって、運用コストと手間を削減でき、全てのインバウンドとアウトバウンドのネットワーク・トラフィックの可視化と管理を可能にします。

◆ WatchGuard XCS ソリューションのメリット

- ・ 複数のプロトコル上で、コンテンツ・セキュリティと脅威管理を効率的に統合
- ・ 全てのメールとウェブのトラフィックを可視化し、管理を実現
- ・ 企業コンプライアンスに必要なツールと情報を提供
- ・ 複数のポイント・ソリューションを導入する必要がなく、コストと管理の手間を大幅に削減

◆ WatchGuard XCS の主な機能と特長

（1）迷惑メール対策

XCS の中核で「クラウド」コンポーネントである「ReputationAuthority」を活用し、最大 98%の迷惑メールをネットワーク上でブロック。ネットワーク帯域の最適化を実現し、ネットワークを脅威から守ります。

また、WatchGuard XCS のアンチスパム・エンジンでは、送信者情報と画像、添付ファイル、埋め込まれた URL などのコンテンツを検査。メッセージ・トラフィックのコンテンツ分析をカテゴリーとスコアによって自動的に行い、高度なセキュリティを実現します。迷惑メールおよび疑わしいメールの検疫機能によって、迷惑メールをローカルの検疫サーバへ転送し、ユーザーが、ウェブベースのインターフェイスから容易に、検疫メッセージ、安全リスト、ブロック・リストを管理することができます。

（2）外的脅威対策

「Zero-Hour Threat Outbreak Response」機能によって、攻撃が仕掛けられた時間とスキャン用フィルタが開発・配布されるまでのセキュリティホールを削減し、ウイルス、スパイウェア、マルウェアからの保護を実現します。

(3) データ漏洩対策 (DLP : Data Loss Prevention)

WatchGuard XCS の「トランスペアレント修正機能」は、ユーザ設定ポリシーに基づいて、メッセージを自動的にブロック、検疫、ルート変更、ブラインドコピー、暗号化、または許可を行い、データ漏洩を防ぐことができます。定義済みルールは、リアルタイムでのデータ漏洩対策と業界規制の具体的なポリシーに基づいており、柔軟にカスタマイズが可能です。オプションであるメール暗号化機能は、専用サーバ不要でシームレスに機密メッセージを安全に全ての受信者に配信可能。通常の暗号化技術に必要な高いコストを削減できます。また、一元的な DLP 管理によって、複数のプロトコル上に一つのポリシーを適用し、通信中のデータを消失およびポリシー違反から保護できます。

(4) コンテンツ・フィルタリング

WatchGuard XCS の先進的なコンテンツ・フィルタリングおよびマルウェア対策は、インバウンドとアウトバウンドのメールをスキャン。また HTTP と HTTPS の URL フィルタリングを行い、悪意のあるコンテンツからネットワークを守ります。

高い信頼性を実現するメール・セキュリティは、ダイナミックなオンデマンド・クラスタリング機能によって、複数のシステムへ簡単にシステム設定とメッセージング・キューを複製し、冗長性と拡張性を実現。最大限のアップタイムを提供できます。さらに、メッセージ・レベルの冗長性によって、通信が消失せずに、メール・セキュリティが常に稼働し実行されていることを保証します。

WatchGuard XCS 製品群は 500 ユーザ規模の中小企業から、10,000 ユーザ規模の大規模エンタープライズ環境まで対応しており、次の 6 種のモデルが提供されます：

- ・ XCS170 : 最大 500 ユーザまでのメール・セキュリティ・ソリューション
- ・ XCS370 : 最大 1,000 ユーザまでのメール・セキュリティ・ソリューション
- ・ XCS570 : 最大 1,000 ユーザまでのエンタープライズ・メール・セキュリティ・ソリューション
- ・ XCS770 : 最大 4,000 ユーザの中規模エンタープライズ向けコンテンツ・セキュリティ・ソリューション
- ・ XCS970 : 最大 7,000 ユーザの大規模エンタープライズ向けコンテンツ・セキュリティ・ソリューション
- ・ XCS1170 : 10,000 ユーザ以上の大規模エンタープライズ向けコンテンツ・セキュリティ・ソリューション

尚、WatchGuard XCS は、今期 (1~3 月) に出荷予定です。

◆今回の WatchGuard XCS 発表についてのコメント

WatchGuard XCS 発表について、ウォッチガード代表取締役社長である本富顕弘は、「弊社ウォッチガード・テクノロジーは、これまで次世代 UTM 製品『XTM』をネットワーク・セキュリティ・ソリューションとして提供してきました。この度リリースする次世代コンテンツ・セキュリティ製品『XCS』は、メール・セキュリティと Web セキュリティを実現するソリューションです。今日のセキュリティ対策は、物理的なネットワークの保護からコンテンツ、データの保護に重点がシフトしています。ウォッチガードは、ネットワーク+メール+Web のセキュリティを統合して『ビジネス・セキュリティ』と定義し、XTM と XCS の二つのソリューション・ラインナップを提供することで、日本の中小企業からエンタープライズ企業での『ビジネス・セキュリティ』の実現に貢献していきます。」とコメントしています。

◆製品イメージデータ

- XCS 170 : http://www.watchguard.com/images/products/xcs170_ft.jpg
- XCS 370 : http://www.watchguard.com/images/products/xcs370_ft.jpg
- XCS 570 : http://www.watchguard.com/images/products/xcs570_ft.jpg
- XCS 770 : http://www.watchguard.com/images/products/xcs770_ft.jpg
- XCS 970 : http://www.watchguard.com/images/products/xcs970_ft.jpg
- XCS 1170 : http://www.watchguard.com/images/products/xcs1170_ft.jpg

WatchGuard Technologies 社について

WatchGuard Technologies 社は、1996 年から、ネットワーク・セキュリティ・アプライアンスにおけるテクノロジー・リーダーとして、信頼性が高く管理しやすいセキュリティ・ソリューションを全世界の企業に提供しています。WatchGuard Technologies の UTM ソリューションである WatchGuard Firebox X は、強力で信頼性の高いマルチレイヤーのセキュリティと、導入・運用、サポートのし易さ、最高の費用対効果を提供します。すべての WatchGuard 製品は、革新的なサポート、メンテナンス、教育プログラムである WatchGuard LiveSecurity によってバックアップされています。ウォッチガードは非公開企業で、本社は米国ワシントン州シアトル。その他、北米、ヨーロッパ、アジアパシフィック、ラテン・アメリカに支社があります。詳細はウェブサイト <http://www.watchguard.co.jp> をご覧下さい。

本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先

ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社 マーケティング担当 山之内真彦
TEL : 03-5456-7880、FAX : 03-5456-5511、電子メール : info-jp@watchguard.com

WatchGuard、XCS、Firebox は、米国ウォッチガード・テクノロジー社の米国およびそのほかの国における登録商標あるいは商標です。
本プレスリリースで使われているそのほかすべての登録商標および商標は、各所有者に権利があります。